第1回 学校運営協議会 議事録

校名	府立岬高等学校
校長名	岸野 敏昌

開催日時	令和7年5月23日(金)
開催場所	大阪府立岬高等学校 会議室
出席者(委員)	保井太郎 会長、 島崎英夫 副会長、 保田智子 委員、 中川政文 委員
出席者(学校)	岸野敏昌 校長、 津田等 事務長、 栩原正明 教頭、 長井一也 教頭
	首席2名、進路指導主事、生徒指導主事、保健主事
	学年主任3名、初任者2名
傍聴者	なし
協議資料	令和7年度 学校経営計画及び学校評価
備考	

議題等(次第順)	
1. 【はじめに】	① 学校長挨拶
2. 【連絡及び報告】	① 学校長より報告 令和6年度学校経営計画及び評価について ② 各部事業報告
3. 【協議事項】	① 令和7年度学校経営計画について
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
1. 【はじめに】	① 学校長挨拶 ステップスクール2年めで、朝の立ち番で元気に挨拶してくれる生徒が増えてきていることや、体育祭・文化祭などの行事にいきいきした姿が見られるなど、生徒の雰囲気の変化を感じる。学校アンケートの数値の良さと校長自身の実感が一致している。 中途転退学率が令和5年度16.1%から令和6年度5.5%と大幅に減少。 地域連携も活発に動いており、それは各機関やコーディネーターの保井様はじめ、担当教員の尽力あってのもの。本日は様々な観点から忌憚のない意見を頂戴したい。
	② 学校運営協議会実施要項について
	③ 学校運営協議会委員の紹介 会長 保井太郎様、副会長 島崎英夫様、岬中学校校長 保田様、PTA会長 中川様 のご紹介と会長の挨拶 出席している教員の紹介

2.【連絡及び報告】

①令和6年度 学校経営の追記事項の説明

- ・第3回 学校運営協議会からの意見
- ・自己評価 地域連携の肯定的意見 88.7%
- ・授業展開 2回記載していたものを2回の平均値に変更
- ・自治会だよりの回数 22回（大幅増）
- ・進路未決定者5名
- ・中途転退学率5.5%（1/3減）
- ・月当たり「時間外勤務45時間以上の教職員」4.1人

②各部事業報告

【生徒指導部】

1.登下校

安心して学校生活を送れるように全教員で立ち番を行っている。

服装指導:よくなっている。

頭髮指導:進路指導部と連携しながらTPOに応じた頭髮指導。

喫煙の防止、問題行動の防止に努めている。

2. 生徒指導に関する講演

昨年度より講演の形態を実施。(学校薬剤師や専門人材の講演を予定)

3. 進捗状況

・喫煙行為

ここ2年で校内喫煙がかなり減った。立ち番の教員が立っていることが抑止力になっている。

・昨年度からの取り組み

生徒指導部の各教室の巡回、教室整備、形態指導、服装指導、机上の整理整頓(ペットボトルなど)を学期に1～2回行っている。

問題行動があった際にSC、SSWと連携しながら問題事象が起こった際に協力している。

【進路指導部】

1. 昨年度の進路状況

44期生82名が卒業 進学3割程度、就職6割程度(例年とほぼ同じ割合)

未定5名(アルバイト希望4名、家事手伝い1名)

職業訓練校など様々な進路先が増えている。

ステップスクールになり、指定校推薦よりも総合型選抜を選ぶ生徒が増えている。

合格率も高く、希望した学校に受かっている。一般入試の生徒は昨年度0名。

3. 就職実績

求人数が大幅に上がっている要因として、Handyでの入力作業が上がっている。

生徒は求人票を確認しており、泉州地域、堺以南を中心に。技能職や製造が多い状況。

学校紹介で39名が就職。

全体を通してステップスクールになり、多様な選択肢がもとめられている。

【教務部】

1. 令和6年度報告

(1) 在籍異動

3学年 82名 合計311名 転退学者17名
月別の移動数:年度末の転退学率が高い。

2. 令和7年度入学者選抜

今年度入試よりオンライン出願、デジタル採点が導入された。
受付簿の入力などの作業はなくなったが、選抜事務作業に困惑することが多かった。
初日の朝の段階でほとんどの生徒が出願。

志願状況

150名のうち、120名が志願し、119名が合格、1名が追学力検査にて合格。

2次選抜 2名が志願し、2名が合格。計122名の合格者。

今年度も転退学者の数を少なくできるよう指導の充実、各教科・学年の教員と連携を図って行きたい。
PCの更新、新校務システム導入に伴い、成績処理や校務を円滑に進めるようにする。

【地域連携】

1. 岬高校式地域連携教育活動(MILPEA)の概要説明

2. 令和6年度 地域連携授業・活動の紹介

【協議事項】

①令和7年度 学校経営計画及び学校評価

・運営協議会第3回をうけて修正

2 中期的目標 (前回)社会で生き抜く力 → (修正)社会で生き抜き社会をよくする力

3(1) 高校生活支援カードの活用促進 → (修正)高校生活支援カードを活用した個別の～支援を行う。

3(5) 中途転退学率 5.5% を記載

3年後の目標を達成している → 毎年達成しているわけではない。中長期的な目標としているため継続した目標としている。

4(2) (R6 82回) を記載 教員へ記事の掲載を促進し、回数を増やすことができた。

5(2) 働き方改革の推進

時間外R6 23.9時間 4時間減った

45時間以上の教職員を4人以内へ → 昨年度4.1人

【質疑応答】

島崎様

意欲に関する評価、面接の評価基準難しいのではないかと？

湯川首席

教員への評価基準の説明を丁寧に行っている。

島崎様

地域として岬高校はどう見られているか？

岸野校長

岬町として町長はじめ議員の方などに岬高校に感謝の言葉をいただく。
岬町が主催するイベントに部活動や生徒会などが参加する機会もある。
登下校の様子などを見て岬高校がよくなっているという声も上がっている。
ただ、教員の負担が増えている面もあるためもっとうまくできる方法は探していかなければならない。

保田様

休日などで教員が行うことが多いのか？

岸野校長

クラブ活動や地域連携などで教員の休日出勤や時間外勤務の現状があるが、会議などの時間はなるべく業務時間内に終わるように配慮し、定時を過ぎてしまった場合でも、帰りやすい環境はつくっている。

島崎様

大学で教員に面接指導をしているが、大阪府の教員になってよかったですか？

須賀教諭

教員になってよかった。
子どもたちをどうよくしていくか考えるのが面白い。

次回の会議日程

日時	令和7年10月17日
会場	大阪府立岬高等学校